

# 目次

ごあいさつ	i
東京芸術大学百年史刊行にあたって	iii
まえがき	v
凡例	viii
年譜——音楽取調掛から明治時代の東京音楽学校(明治十二年～四十五年)——	一
第一章 音楽取調掛 明治十二年～二十年(一八七九～一八八七)	九
第一節 伊澤修二の「音楽傳習所」(仮称)創設の構想	二
一 『學制』頒布と伊澤修二のアメリカ留学	二
二 伊澤修二の文部省への働きかけ	三
(一) 「學校唱歌ニ用フベキ音楽取調ノ事業ニ着手スベキ、在米國目賀田種太郎、伊澤修二ノ見込書」	四
(二) 目賀田種太郎「我公學ニ唱歌ノ課ヲ興スベキ仕方ニ付私ノ見込」	五
(三) 「唱歌法取調書」伊澤修二	六
(四) 「音楽傳習所創設議案」	七
(五) 「L・W・メーソンと目賀田種太郎との條約書」英文・和文	三
メーソン社行会におけるフィルブリッキの演説(訳文)(三)	五
第二節 音楽取調掛の事業	元
一 音楽取調掛の創置	元

二 音楽取調掛の整備と伝習生の養成

(一) 音楽取調掛、最初の蔵書	三
(二) 音楽取調掛における最初期の楽器状況	三
(三) 音楽取調掛最初の入学者	三
(四) 音楽取調掛授業課目表 明治十四年十月作成	三
(五) 音楽取調掛規則および教則 明治十六年	四
(六) 各府県派出音楽伝習生の募集	五
(七) 音楽取調掛における音楽教育の経過報告 明治十七年、報告者 伊澤修二	五
参考資料 I 中村専 『和聲学ノート』	六
参考資料 II 試験問題 明治十六年～十八年より	六

三 教材の出版

(一) 『唱歌掛圖』および『小學唱歌集』の出版、『幼稚園唱歌』出版	九
(二) 音楽書の出版 明治十六年～十七年 『音楽問答』(一) 『樂典』(一) 『音楽指南』(一)	一〇

四 楽器の改良および試作

(一) 「楽器試製改造及び模造ノ事」	二三
(二) 「学校用楽器ノ適否研究ノ事」	二五

五 伊澤修二の示論

六 音楽取調掛における調査および研究

(一) 「諸種ノ樂曲取調ノ事」	二三
(二) 「内外音律ノ異同研究ノ事」	二五
(三) 「本邦音階ノ事」	二六
(四) 「希臘音律ノ事」	二三
(五) 「音楽沿革大綱」	二五

(六)	「明治頌撰定ノ事」	一四〇
(七)	「俗曲改良ノ事」	一四〇
(八)	「音楽ト教育トノ關係」(伊澤修二の論説)	一四一
七	英文『音楽取調掛成績申報書』明治十七年二月 on the RESULT OF THE INVESTIGATIONS CONCERNING MUSIC	一四二
八	英米における博覧会への参加	一四九
(一)	イギリス、ロンドン万国衛生博覧会への参加	一五〇
(二)	アメリカ、ニューオーリンズ綿百年期博覧会への参加	一五一
(三)	イギリス、ロンドン発明品博覧会への参加	一五三
九	音楽取調掛の演奏会	一五七
(一)	「明治十四年七月七日音楽取調掛期末試業略記」	一五七
(二)	「明治十五年一月三十日及三十一日昌平館ニ於テ音楽取調報告ノ節唱歌并音楽演習手續書」	一五八
(三)	明治十五年七月一日メーソン送別演奏会	一五九
(四)	「明治十六年一月二十二日エツケルト氏来所ニ付演奏手續書」	一六〇
(五)	「明治十六年七月十一日期末演習會」	一六三
(六)	「明治十七年一月二十三日大木文部卿巡視につき本掛事業供閱」	一六四
(七)	明治十七年五月十日月次演奏会	一六四
(八)	「明治十七年五月十二日京都府吏員等參觀ニ付演習曲目」	一六五
(九)	明治十七年六月十四日月次演奏会	一六五
(十)	「明治十七年十月九日東京府外十二縣聯合學事協會員參觀ニ付演奏手續」	一六六
(十一)	「明治十七年十月十一日司法省雇佛国人アツペール氏參觀ニ付演奏曲目」	一六七
(十二)	「明治十七年十月十六日嶋津珍彦外九名參觀ニ付演奏手續」	一六七
(十三)	「明治十八年一月十七日月次音楽演習會演奏曲目」	一六八
(十四)	明治十八年六月八日ヴァイオリン奏者モーレルを招待して音楽演習會開催	一六八
(十五)	「明治十八年七月二十日午後二時ヨリ上野公園地内文部省新築館ニ於テ音楽取調所卒業演習會」	一六九
(十六)	明治二十年二月十九日音楽取調掛最後の卒業演奏会	一七〇

(七)	明治二十年七月九日音楽取調掛演奏会	三七
第三節	音楽取調掛を支えた人々	三九
一	外国人教師	三九
(一)	ルーサー・ホワイトイング・メーンン Luther Whiting Mason	三九
(二)	フランツ・エッケルト Franz Eckert	四〇
(三)	ギヨーム・ソープレット Guillaume Sauvlet	四七
二	音楽取調掛員	四〇
	伊澤修二	四〇
	山勢松韻	四二
	内田彌一	四三
	岡倉覺三(天心)	四四
	神津専三郎	四五
	瓜生 繁	四六
	奥山朝恭	四九
	宮内省式部寮雅楽課伶人	四九
	芝葛鎮(三七) 上眞行(三七) 奥好義(三七) 辻則承(三九) 多久隨(四〇) 多忠廉(四〇) 多忠孝(四一)	四九
第二章	明治時代の東京音楽学校	五三
第一節	音楽学校の設立	五三
一	音楽学校の設立に至るまで	五三
二	創草期の東京音楽学校	六七
三	新築校舎の落成	七〇
四	帝国議会開院	七四
第二節	東京音楽学校存廃論争	七七

一	音楽学校存廢論争の経緯	二九七
二	関連資料	三〇七
三	『明治廿四年以降帝國議會關涉綴』	三〇九
四	この時期の演説	三一九
第三節	高等師範学校附属から再独立へ	四〇七
第四節	規則およびカリキュラムの変遷	四一九
一	規則	四一九
二	カリキュラム	四二一
	〈参考資料〉(四六九)	
第五節	第二代東京音楽学校校長村岡範爲馳の音楽論説	四三二
第六節	上原六四郎「音響學」講義録	四六四
第七節	『祝日大祭日唱歌』歌詞・楽譜の選定	四九八
第八節	中等唱歌教科書の出版	五〇八
第九節	外国人教師 履歴とその活動	五二一
(一)	ルードルフ・ディットリヒ Rudolf Dittrich	五二一
(二)	ラファエル・フォン・ケーベル Raphael von Koebel	五三三
(三)	アウグスト・ユンケル August Junker	五三三
(四)	ノエル・ペリー Noël Peri	五三三
(五)	アンナ・ラール Anna Laehr	五三三
(六)	ヘルマン・ハイゼリヒ Hermann Heydrich	五三三
(七)	シャルロット・フレック Charlotte Fleck	五三七
(八)	ルドルフ・ロイテル Rudolph Ernest Reuter	五三八

第十節	グルック作曲「オルフォイス」の上演……………	四二
第十一節	東京音楽学校評……………	五五
楽譜資料……………		五五
音楽取調掛編纂『唱歌集』初編	明治十四年……………	五九
音楽取調掛編纂『唱歌集』第二編	明治十六年……………	五九
音楽取調掛編纂『唱歌集』第三編	明治十七年……………	三
音楽取調掛編纂『幼稚園唱歌集』	明治二十年……………	二七
東京音楽学校編纂『箏曲集』	明治二十一年……………	三
東京音楽学校編纂『中等唱歌集』	明治二十二年……………	三
東京音楽学校編纂『中學唱歌』	明治三十四年……………	三
東京音楽学校編纂『中等唱歌』	明治四十二年……………	三
東京音楽学校出版目録	明治二十二年～四十二年……………	四
参考文献……………		四
人名索引……………		一